

■ 外研社·供高等学校日语专业使用

# 新经典 日本语

## 高级教程

总主编 / 刘利国 宫 伟

主 编 / 李 燕 于 飞 刘 艳

小林奈津子(日)

大越喜美子(日)

藤野谦一(日)

にほんご

第二册



外语教学与研究出版社



# 新经典 日本语

## 高级教程

总主编 / 刘利国 宫 伟

主 编 / 李 燕 于 飞 刘 艳

小林奈津子(日) 大越喜美子(日)

藤野谦一(日)

编 委 / 于 飞 李 燕 刘 艳

大越喜美子(日) 小林奈津子(日)

藤野谦一(日) 吕秋鑫 杨丝宇

外语教学与研究出版社

北京

第二册

## 图书在版编目 (CIP) 数据

新经典日本语高级教程. 第二册 / 李燕等主编 ; 于飞等编. -- 北京 : 外语教学与研究出版社, 2017.1

(新经典日本语 / 刘利国, 宫伟总主编)

ISBN 978-7-5135-8525-5

I. ①新… II. ①李… ②于… III. ①日语—高等学校—教材 IV. ①H369.39

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2017) 第 019554 号

出版人 蔡剑峰  
项目策划 彭冬林 杜红坡  
责任编辑 刘宜欣  
装帧设计 新佳禾书装  
出版发行 外语教学与研究出版社  
社址 北京市西三环北路 19 号 (100089)  
网址 <http://www.fltrp.com>  
印刷 北京尚唐印刷包装有限公司  
开本 787×1092 1/16  
印张 13.5  
版次 2017 年 1 月第 1 版 2017 年 1 月第 1 次印刷  
书号 ISBN 978-7-5135-8525-5  
定 价 48.00 元 (含 MP3 光盘一张)

购书咨询: (010) 88819926 电子邮箱: [club@fltrp.com](mailto:club@fltrp.com)

外研书店: <https://waiyants.tmall.com/>

凡印刷、装订质量问题, 请联系我社印制部

联系电话: (010) 61207896 电子邮箱: [zhijian@fltrp.com](mailto:zhijian@fltrp.com)

凡侵权、盗版书籍线索, 请联系我社法律事务部

举报电话: (010) 88817519 电子邮箱: [banquan@fltrp.com](mailto:banquan@fltrp.com)

法律顾问: 立方律师事务所 刘旭东律师

中咨律师事务所 殷 斌律师

物料号: 285250001

# 前言

近年来，随着日语专业在各大高校的扩展，日语教学的整体水平和教学质量也不断提高。高等院校外语专业教学指导委员会日语组重新修订了《高等院校日语专业高年级阶段教学大纲》，把教学重点从掌握单一的日语语言知识提升到提高综合语言技能和交际技能的层面，强化了“学以致用”的教学理念。为适应大学日语教学发展的新形势，进一步提高教学质量，作为日语专业本科的准入、建设和评价依据，日语专业本科教学质量国家标准进一步明确了“日语专业学生应具备日语运用能力、文学赏析能力、跨文化交流能力、思辨与创新能力、一定的研究能力、自主学习能力和实践能力”的具体要求。

大连外国语大学日本语学院本着科学严谨的态度和“与时俱进、勇于创新”的精神，由中日两国长期从事日语教育的一线教师共同努力，继系列教材《新经典日本语基础教程》之后，历时两年，编写了这套新理念、功能型的大学日语高年级教材——《新经典日本语高级教程》。

《新经典日本语高级教程》是以中国高等院校零起点的日语专业本科高年级学生为对象，以培养学生听说读写译综合语言交际能力为目标的教材。本教材以《高等院校日语专业高年级阶段教学大纲》为依据，参照日本国际交流基金《JF日语教育standard(2010)》对相应学习阶段的要求编写而成。本套教材共分为2册，每册10课，每课由Warm up、学习要点、正文导入、正文、作者简介、单词解说、语法解说、学习指南、课外阅读等模块构成。各院校可以按照6~8课时一课的进度安排教学，教师也可以根据学生的接受程度灵活掌握。

本套日语高级教程是在学习和吸收二语习得的先进理念和方法的基础上，结合《高等院校日语专业高年级阶段教学大纲》，根据外语教学理论与实际教学需要编写而成。在教学理念和教学模式的探索与创新上做了大胆尝试。在编写设计中，主要体现了以下几个特点：

**1. 以学生为中心，激发学生的自主学习动力。**本教材在设计上添加了Warm up和正文侧面大量的问题指引，给学生提供了广泛的思考空间和探讨话题，目的在于提高学生的学习积极性和课堂的参与度。与传统教学模式不同，教师在课堂上的角色不再是单纯的语言知识的传播者，而是整个语言教学活动的引导者。教师的主要任务在于调动学生的自主学习和参与意识，引导学生对课文内容进行表层的语言探究和深层的理解分析，课堂力求以学生为主体，最大限度地调动学生的学习兴趣。

2. 以输出为驱动，培养学生的综合应用能力。语言说到底只是用来交际的工具，学习语言的根本目的也是为了利用这一工具跟他人进行有效的沟通。本教材在编写设计上强调输入与输出并举。以输出为驱动，培养学生在真实语境下完成语言交际任务的能力。除了Warm up，学习指南中的各项设问、主题及要旨的归纳、学习要点的总结，都引入了任务教学法的理念和方法，给学生和老师提供了多样化的真实语境交际任务。学生在完成任务的同时也提高了对语言的兴趣，同时也提升了语言的综合应用能力。

3. 语言学习中贯通文化元素，培养学生的跨文化思辨能力。语言是文化的载体，学好日语也必须要了解日本这个国家的文化。本教材在编写中以跨文化交际理论为指导，强调语言文化交际、文化冲突与语言知识学习的融合。选择每一篇课文内容时都考虑到了语言知识背后的日本这个大环境。学生通过语言学习，不仅可以获得语言交际技能，而且还可以从语言和思维上体会到不同民族间的文化差异。通过对日本这个国家文化上的了解，进一步理解每一篇文章的背后深意，也培养了学生的跨文化思辨能力。

4. 现代数字化教学模式，提供更广泛的学习交际平台。在数字化教学的新环境下，外语学习的途径变得更加便捷多样。网络教学和移动平台的发展，打破了时间和空间的限制，为学习者提供了更为广阔的交际平台。本套教材除了传统的纸质教科书、录音光盘和教学课件外，还有针对教学需求开发的语言测试系统和网络学习平台，为学习者提供了崭新的学习模式，来提高学生的自学意识和能力，及时对其自身水平进行检测，并提供相应的个性化指导意见和学习课程。

本套教材在编写过程中借鉴吸收了国内外优秀教材的经验，并在此基础上提出了自己的创新体验。但囿于学识和经验，教材设计中应该还存在很多不足和疏漏，偏颇之处恳请专家指正，我们会努力把《新经典日本语》系列不断修订为真正意义上的经典教材。

《新经典日本语高级教程》编写组  
2016年7月

# 使用说明



《新经典日本语高级教程》共两册，与《新经典日本语高级教程精解与同步练习册》相配套，适用于高等院校日语专业三年级阶段教学。教材每册10课内容，每课都由目标页、正文、课后指南和阅读课文四部分构成，每部分又都有不同的细分板块。各院校可以按照6~8课时一课的进度安排教学，教师也可以根据学生的接受程度灵活安排授课量。

为了方便教师更好地使用本教材进行日语教学，现以第一课的内容为例，对教材内容和教学流程做一个简单的说明。

每一课的目标页都是由Warm up和学习要点两部分构成。

## Warm up

1 家庭にある身近なものの中で「科学技術」の恩恵を受けていると思うものをあけてみてください。  
2 「科学技術時代の今を生きるために」私たちにとって必要なことはどんなことだと思いますか。話し合ってみましょう。

针对每一课的正文内容提出相关话题供学生课前热身、讨论。可用于学生课堂发表，锻炼他们的日语口头表达能力。

## 学习のポイント

1. 人が「退化する」とは、人のどういう点に対して言っているのか、説明してみよう。
2. 「人工の自然」と「自然な自然」の違いを説明してみよう。
3. (形式段落⑪) 「眞の科学技術教養」とは、どのようなことか。まとめてみよう。
4. (形式段落⑫) に、「あらゆる分野で似たような話がある。」とあるが、「人工の自然」には、トイレのほかにど

学习要点指明每一课需要重点理解和掌握的内容，可在每课课文讲解完成后，用于确认对文章内容的理解程度。

正文部分主要由正文导入、课文和作者简介三部分组成。

### 導入文

社会の文明が発達するにしたがって、以前多くの人が出来ていたことが最近では出来なくなり、若い人が年配の人から批判されることがあります。例えば日本では、コンピューターや携帯電話の発達にしたがって、若い人が漢字を書けなくなったということがよく言われます。自分の手で文字を書くことが減り、メールなどで文章を書くので漢字を書く機会も減り、画面上に表れるいくつかの漢字の中から選択すればよくなつたわけです。

確かにこれは漢字を自分の手で書く、という点においては年配の人から批判されても仕方ないのですが、機械の発達によってそのような機会が減ってしまったのですから、仕方のない現象ですし、またコンピューターや携帯でメールを書く技術は年配の人と比べると若い人はとても優れているわけですから、若い人を無下に批判することは出来ません。自分の手で漢字が書け、しかも技術を使いこなせば、それが最も良いのでしょうか、文明が発達するとそれにより失うものもありますが、得るものもある、そのような姿勢もまた必要でしょう。年配の人だって、自分の手で火は起こせないのでありますから。

第一課

人工の自然

正文导入部分大约300字左右，主要用于提示和引导。文字简单易懂，能帮助学生顺利进入正文。

### 本文篇

最近の日本のトイレは非常に優れたものになっている。コンピュータ仕掛け<sup>け</sup>で、人が近くと自動的に便器の蓋<sup>ふた</sup>が開き、水でおしりを洗ってくれて乾かしてくれて、さらに水を流すのも自動的に行ってくれる。センサーがついていて、人が近づいてきたということを察知す



①コンピュータ仕掛け：コンピュータ装置。

②至れり尽くせり：心づかいをもてなしが、大層よく行き届いていること。

問1：「本当に至れり尽くせり」とあるが、最近の日本のトイレのどんな点が至れり尽くせりなのか、説明しない。

問2：「これ」の指しているものを本文から抜き出しなさい。

正文侧面的蓝色区域共有两部分内容。红色部分是对文中疑难词汇的解释，黑色部分是对正文内容的提问。学生在预习或自学课文时，可以通过侧面的提问加深对文章的理解，同时也旨在培养学生阅读文章时的问题意识。

### 筆者紹介



坂村 健  
(さかむらけん、1951年—)

計算機科学者。情報工学者。東京都生まれ。慶應義塾大学工学博士卒業。専門は電脳建築学、計算機科学。主な著書は『グローバルスタンダードと国家戦略』『コンピュータ・アーキテクチャ—電脳建築学』など。

出典：本文は、「不完全な時代」(二〇一一)をもとに書き改めたものである。

作者简介部分包括作者生平简介以及课文出处，除了帮助学生了解作者外，也有助于进一步理解文章内容。

课后指南部分包括单词解释、学习指南和语法讲解三个板块。

## 新しい単語

仕掛け【しあげ】①名

1. 途中まですること。やりかけ。
2. 装置。仕組み。物事をある目的に合わせて、作りこしらえること。



单词解释部分与基础教程不同，全部采用日语解释，以提高学生对词义理解的准确性。同时还对重点用法提供了相关例文。

## 学習の手引き

### 1 設問

- 2 段落ごとの要点をまとめてみよう。
- 3 テーマ：筆者の主張を捉えよう。
- 4 空欄を埋めながら、本文の要旨を理解しよう。



学习指南部分共有四个版块：提问、分段、主旨归纳和要旨填空。便于学生理解全文，并进行更细致的确认。

## 文法の注釈

### ～なしに

【意味】（～ないで／～なく）

【接続】（動詞連体形+こと／名詞+なしに）

【解釈】「届け出」「断り」など動作を表す名詞に付いて、「普通は～するが、この場合は～しないで～する」または「普通は～するが、この場合は～しないで、そのままいる」という意味を表す。書きことば的表現で、話しことばでは「しないで」を使う。

### 【例文】

①私たちは3時間、休息なしに歩き続けた。



语法解释也和单词一样，全部采用日语讲解。分为“意味”“接続”“解釈”“例文”四部分。对于疑难内容还有★进行详细解释。

## 読み物

テクノロジーと人間

黒崎政男

昨日、ある電機メーカーが発売した「洗剤ゼロ洗濯機」が評判を呼んだ。「洗剤ゼロの洗濯機」は、なぜ世間を驚かせたのか。  
そのメーカーの開発担当者の「洗剤がすべて不要の洗濯機が先か、水の要らない洗濯機が先か、水も洗剤も要らない繊維が先か、それが究極の競争だ。」というコメントが新聞に載っていたが、洗剤ゼロの洗濯機の存在は非常におもしろい。  
哲学において、ものをとらえる基本的な視点は二つある。それがなければそれではなくなってしまう「本質」と、それに付随する「個有性」。

# 目次

第一課 人工の自然 / 坂村 健	1
読み物 テクノロジーと人間	
第二課 成長するということ / 吉本 隆明	19
読み物 「待つ」ということ	
第三課 家族化するペット / 山田 昌弘	35
読み物 動物の信号と人間の言語	
第四課 言語と文化 / 池上 嘉彦	55
読み物 言葉と世界	
第五課 考えることのおもしろさ / 西 研	79
読み物 子供の問い	
第六課 日本人の「顔」 / 中西 雅之	95
読み物 〈顔〉という現象	
第七課 敬語への自覚、他者への自覚 / 橋本 治	115
読み物 日本語は乱れているか	
第八課 指 / 鷺沢 蓼	131
読み物 ポケットの中	
第九課 蟻 / 横光 利一	153
読み物 清兵衛と瓢箪	
第十課 山椒魚 / 井伏 鮎二	177
読み物 神様	
付録 文法の注釈	207

# 第一課



人工の自然

坂村  
健



# Warm up

- 1 家庭にある身近なものの中で「科学技術」の恩恵を受けていると思うものをあげてみてください。
- 2 「科学技術時代の今を生きるために」私たちにとって必要なことはどんなことだと思いますか。話し合ってみましょう。

## 学習のポイント

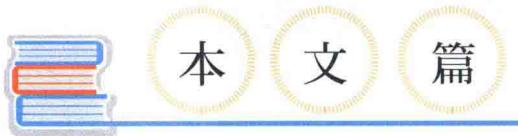
1. 人間が「退化する」とは、人間のどういう点に対して言っているのか、説明してみよう。
2. 「人工の自然」と「自然な自然」の違いを説明してみよう。
3. (形式段落⑪) 「眞の科学技術教養」とは、どのようなことか。まとめてみよう。
4. (形式段落⑫) に、「あらゆる分野で似たような話がある。」とあるが、「人工の自然」には、トイレのほかにどのような例が考えられるか。話し合ってみよう。



## 導入文

社会の文明が発達するにしたがって、以前多くの人が出来ていたことが最近では出来なくなり、若い人が年配の人から批判されることがあります。例えば日本では、コンピューターや携帯電話の発達にしたがって、若い人が漢字を書けなくなったということがよく言われます。自分の手で文字を書くことが減り、メールなどで文章を書くので漢字を書く機会も減り、画面上に表れるいくつかの漢字の中から選択すればよくなつたわけです。

確かにこれは漢字を自分の手で書く、という点においては年配の人から批判されても仕方ないのですが、機械の発達によってそのような機会が減ってしまったわけですから、仕方のない現象ですし、またコンピューターや携帯でメールを書く技術は年配の人と比べると若い人はとても優れているわけですから、若い人を無下に批判することは出来ません。自分の手で漢字が書け、しかも技術も使いこなせれば、それが最も良いのでしょうが、文明が発達するとそれにより失うものもありますが、得るものもある、そのような姿勢もまた必要でしょう。年配の人だって、自分の手で火は起こせないのであるから。



最近の日本のトイレは非常に優れたものになっている。コンピュータ仕掛け<sup>①</sup>で、人が近づくと自動的に便器の蓋が開き、水でおしりを洗ってくれて乾かしてくれて、さらに水を流すのも自動的に行ってくれる。センサーがついていて、人間が近づいてきたということを察知す

①コンピュータ仕掛け：コンピュータ装置。

ると蓋が開き、人間が離れて一定時間経過したと判断すると蓋が閉まり水が流れるのである。こんな高機能のものが珍しくなくなっている。



本当に至れり尽くせり<sup>いた</sup>で、こんな高性能なコンピュータ付きトイレが作れる国というのは、コンピュータを専門とする私でも他に聞いたことがない。これこそ日本のオリジナル。日本の最高の技術の結晶<sup>けっしちょう</sup>と誇っていいものだ。しか

②至れり尽くせり：心づかいやもてなしが、大層よく行き届いていること。

問1 「本当に至れり尽くせり」とあるが、最近の日本のトイレのどんな点が至れり尽くせりなのか、説明しなさい。

問2 「これ」の指しているものを本文から抜き出しなさい。

し、この種のトイレで水が自動的に流れることに慣れてしまうと、自動で水が流れないトイレに入ったときに、流すのをつい忘れてしまう人もでてくるのではないか。

ところで、こういう話をすると、オチ<sup>③</sup>としてよくでてくるのが「技術の進歩で人間が怠け者になる。」とか「頭を使わなくなる。」という話だ。さらには、「人間の生きる力が弱くなる。」とか「<sup>たいか</sup>退化する。」とかいう人もでてくる。

しかし、私はそういうことを言いたいためにこの例を出したのではない。コンピュータが入ってモノがどんどん気が利くようになるということに関しては、悪いことだとは思っていない。我々は人類の歴史上もっとも平均余命の長い時代に生きている。このような時代は、あらゆる分野で人類の生活環境を向上させ健康を増進させてきた科学技術なしには実現できなかつたものだ。

今まで人間がやっていたことを、コンピュータが代わってやってくれるからといって人間が退化すると考えるのは間違っている。

そういうことを言い出すような「素朴な時代」にあこがれる人が想定しているのが明治時代か江戸時代かわからないが、その時代だって前の時代より何かしら進歩している。その人たちの理屈だと、人間はずっと退化しているということになってしまふ。たとえ理想の時代が

③オチ：話の最後の一言で、笑わせたり、納得させたりする表現のこと。

問3 「そういうこと」の指す内容をまとめなさい。

問4 「人類の歴史上もっとも平均余命の長い時代」とあるが、現代がそのようになった理由を筆者はどのように考えているか、説明しなさい。

問5 「今まで人間がやっていたことを、コンピュータが代わってやってくれるからといって人間が退化すると考えるのは間違っている」と筆者が考える理由を説明しなさい。

問6 「素朴な時代」とは、どのような時代か、説明しなさい。

やよい  
弥生時代<sup>④</sup>だったとしても、「農耕技術によって  
じょうもん  
縄文時代<sup>⑤</sup>より人間が退化した。」と言って言  
えないことはない。

その理屈で言えば、何より、水洗便所技術自  
体が人間の退化の究極<sup>きゅうきょく</sup>だろう。逆に、それに  
比べれば自動的に流れる便所かどうか見極めな  
いといけないという現状の方が「自然」に近い  
良い時代という屁理屈<sup>へりくつ</sup><sup>⑥</sup>も立てられる。

自然の中に暮らす人にとっては、似たように  
見えて毒がある蛇かない蛇か、見分けること  
が「生きる力」。ならば、似たような便器でも  
自然に流れる便器か流れない便器か見極めな  
ければいけなくなった現状は、むしろ人間に環境  
に対する注意をより多く求める意味で退化を防  
ぐのではないか、というわけだ。

ここで人に求められているのは、「自動で流  
れる便器は、ここにセンサーがついていて、  
それが人間を感じて……。」という、人間が  
作った「人工の自然」に対する理解だ。その理  
解は「毒のある蛇は毒袋<sup>どくぶくろ</sup>があるので、頭の形が  
三角になっている。」というような「自然な自  
然」に対する理解と質的には同じだ。さらに、  
おおわく  
大槻はそれによくても、ヤマカガシ<sup>⑦</sup>など頭が三  
角でない毒蛇<sup>どくへび</sup>もいるように、シャワー便座<sup>べんざ</sup><sup>⑧</sup>だけ  
を本体に増設したタイプではセンサーはあって  
も自動で水が流れない、などといった、より正  
確な理解はあればあるほどいい。

たとえコンピュータの細かい原理がわからな

④弥生時代：日本の考古学  
上の時代区分。弥生土器を  
製作、使用した時代。縄文  
時代に続き、紀元前五世紀  
頃から、紀元後三世紀頃ま  
での約800年間。

⑤縄文時代：日本の考古学  
上の時代区分。縄文土器を  
製作、使用した時代。旧石  
器時代の後、弥生時代の始  
まる紀元前三世紀頃まで続  
く。

問7 「その理屈」とは、ど  
のような理屈か、説明しな  
さい。

⑥屁理屈：筋道の立たない  
理屈。

問8 「人工の自然」とは、  
どのようなものの例えか、  
説明しなさい。

⑦ヤマカガシ：本州以南の  
水田付近に分布するナミヘ  
ビ科のヘビ。有毒。

⑧シャワー便座：温水洗净  
便座。

いとしても「自動で動く以上、人間の動きをどうにかしてこの便器は理解しているはずで、そのためにはどこかに人を感知するセンサーがあるはず。」とか「便座と本体は独立しているので、便座のセンサーの情報は本体には伝わらない。」というような大きな原理での理解は可能だ。

それは、結局は物事の段取りを考える力であり、普段の生活でも求められる基本的な人間の力である。「どうしてそういうことができるのか。」というその大きな原理に興味を持たず、無関心でいるのはよくない。大きな原理がわかられば、技術にどういう限界があるかもわかつてくる。そういうものが、眞の科学技術教養だろう。自然に生きる人々が、蛇に殺されないための知恵を身につけたのと同じように、「人工の自然」の中で生きる力も、やはり身につけねばならない。

トイレの例から入ったが、実はあらゆる分野で似たような話がある。情報通信技術の進歩により手で触れない、実感で学べない「人工の自然」が私たちの周りに広がっている。今までの知識としての科学技術教養とは違って、新しい時代においては、この社会を支えている原理を身につけること、すなわち、科学技術による「人工の自然」を生きるために科学技術教養が必要なのだ。

過去の文化を伝えることは重要だ。人間の本

問9 「その大きな原理に興味を持たず、無関心でいるのはよくない」の理由を説明しなさい。

問10 「『人工の自然』の中で生きる力」とは、どのような力のことか、説明しなさい。

質はいつの時代も変わらないというのも事実だろう。しかし、科学技術に繰り返しはない。過去の教訓を学ぶだけでは対応できない新しい「自然」の中で、私たちは生きなければならぬのだ。

科学技術に支えられた世の中で生きていく上で重要なことを、今こそ皆が真剣に考えなければならない時にきているのではないだろうか。

問11 「科学技術に繰り返しはない」とはどのようなことか、説明しなさい。

### 筆者紹介



坂村 健  
(さかむらけん、1951年—)

計算機科学者。情報工学者。東京都生まれ。慶應義塾大学工学博士卒業。専門は電脳建築学、計算機科学。主な著書は『グローバルスタンダードと国家戦略』『コンピュータ・アーキテクチャ——電脳建築学』など。

出典：本文は、『不完全な時代』（二〇一一）をもとに書き改めたものである。

### 新しい単語



仕掛け 【しあげ】 ①名

1. 途中まですること。やりかけ。
2. 装置。仕組み。物事をある目的に合わせて、作りこしらえること。
3. 用意。準備。特に炊事のしたく。

センサー 【sensor】 ①名

音、光、温度、形などを感知して電子（電気）的に信号を発する装置。検知器。